

安全報告書【2026年度】

1 ごあいさつ

日頃より、ニューシャトルをご利用くださいますこと誠にありがとうございます。

当社では、鉄道事業最大の使命である「安全・安定輸送」を通じて、お客さまから絶対の信頼を寄せられる鉄道を目指して「お客さま・社員の死傷事故ゼロ、鉄道運転事故ゼロ」を目標にかかげ日々取り組んでおります。

開業から 43 年目に入り、設備の老朽化による計画的な設備更新とともに、故障の未然防止に向けた修繕及び対応力の強化を引続き図っております。さらに最近の頻発かつ激甚化する自然災害に対し、迅速な対策管理体制および大規模震災や台風、雪害等の災害対応力強化を図っております。

運輸安全マネジメント制度では、マネジメント・レビューにあたる事故防止委員会を定期的に開催し、事故原因の究明や未然予防対策等の議論を深め、夏季および年末年始に実施している安全総点検では経営幹部による現場巡視を行い、会社全体で安全意識を醸成しています。全社員が「安全」を考え、安全ルールの本質を理解し行動に移せるための社員育成等に取り組む、ヒューマンエラー防止のためのチャレンジ・セーフティ活動を現場主体に議論を高め問題解消に取り組んでおり、運輸安全マネジメント制度の更なる推進とともに安全管理体制の強化を図っております。

昨今の物価の高騰や人口減少など不透明な社会環境の中、当社においても部材の高騰や人手不足など厳しい経営環境にありますが、鉄道の最大の使命である安全・安定輸送を確実に実行することを第一に、業務改善や DX 等への推進をはかってまいります。

ご利用いただいているお客さま、地域の皆さまに改めて感謝とともに、沿線地域価値向上に貢献し、これからも「お客さまに選ばれる鉄道であり続ける」よう社員一同取り組んでまいります。

この報告書は、鉄道事業法に基づき 2025 年度に実施した私たちの安全に関する状況などを皆さまへお知らせするために作成いたしました。是非ご一読いただき、輸送の安全・安心の確保に向けた取り組みをより確かなものとするため、ご意見、ご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

令和 8 年 9 月
埼玉新都市交通株式会社
代表取締役社長
唐澤 朝徳

2 安全に関する基本的な方針

「安全」は鉄道事業の最大の使命であるため、当社の企業理念に『安全第一』を掲げるとともに、安全に対する行動指針及び基本的な考えである『安全綱領』を定め、全社員に周知・徹底を図っています。その他、安全目標を掲げ全社一丸となって安全性の向上に取り組んでいます。

(1) 企業理念

企 業 理 念

私たちは、安全を第一として、安定した輸送とおもてなしの心を込めた良質なサービスにより、社会に貢献する地域に根ざした会社を目指します。

(2) 安全綱領

安 全 綱 領

- 一、安全は輸送業務の最大の使命である。
- 一、安全の確保は、規程の遵守及び執務の厳正から始まり、不断の修練によって築きあげられる。
- 一、確認の励行と連絡の徹底は、安全の確保に最も大切である。
- 一、安全の確保のためには、職責をこえて一致協力しなければならない。
- 一、疑わしいときは、最も安全と認められるみちを採らなければならない。

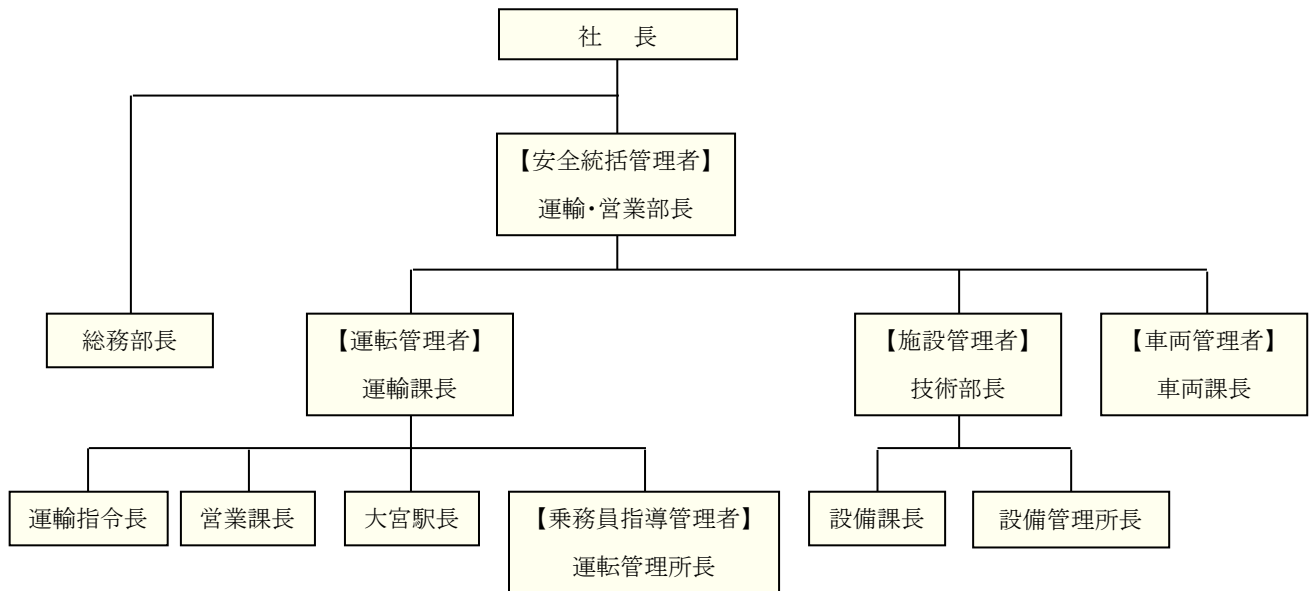
(3) 安全目標

安 全 目 標

お客さま・社員の死傷事故0(ゼロ)、
鉄道運転事故0(ゼロ)、
重大インシデント0(ゼロ)

3 安全管理体制

社長を頂点とする安全管理体制を構築し、各責任者の輸送の安全確保に関する役割・責務を明確にし、経営トップから現業まで一丸となって安全・安定輸送の確保に取り組んでいます。



役 職	役 割 ・ 責 務
社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する。
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、乗務員の資質(適性、知識及び技能)の維持に関する事項を管理する。
施設管理者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する。
車両管理者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する。

4 安全管理の実施状況

運輸安全マネジメント制度に則った安全管理体制を構築し、常に安全を第一とした行動を経営トップから現場まで一丸となって取り組んでおります。主な実施状況は、以下となります。

なお、当社は 2022 年 11 月に関東運輸局による運輸安全マネジメント評価で、当社は安全管理体制の構築及び改善に関する取組みについて、各項目においての見直し・改善が図られているとの評価をいただきました。

(1) 安全推進のための会議

経営会議をはじめとする社内主要会議や事故防止委員会を通じて、鉄道事故や自然災害等に対する情報収集、防止対策等を協議するなど、安全に関する横断的業務を中立の立場で統括する安全推進横断チームを組成し、多面的な視点で協議しています。

① 事故防止委員会

社長以下経営幹部を含めた本社管理職、現業機関の管理職(助役以上)の社員および車両整備業務委託会社の社員が参加し、隔月で開催しています。安全リスクの抽出と解消に向けた議論、運転事故・輸送障害・インシデントの徹底的な分析により再発防止に取り組んでいます。

② 車両故障防止報告会

社長以下経営幹部を含めた本社管理職の社員、現業機関管理職(助役)以上の社員および車両整備業務委託会社の社員が参加し、四半期に 1 回開催しています。車両故障の原因について、ハード面及びソフト面から分析・議論を行っています。

③ 業務委託会社との検討会

車両整備業務委託会社と当社車両課による品質向上検討会を毎月 1 回開催し、車両故障の原因についての分析・議論を行っています。また、車両整備内容の確認、在庫品の確認等を行い、車両整備が予定どおりに進捗するように検討しています。

(2) 運輸安全マネジメント内部監査

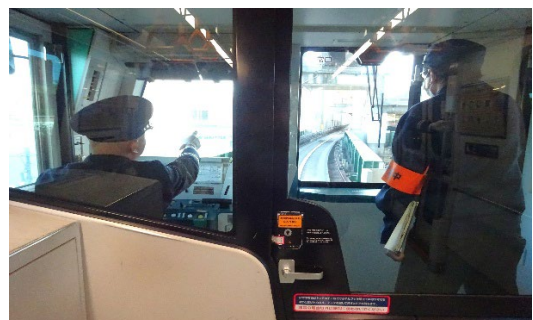
運輸安全マネジメント制度に基づく内部監査を実施し、安全管理体制の有効性について計画的に検証を行い、安全リスクの軽減を図っています。

(3) 安全総点検を中心とした経営幹部による現場巡視

各安全総点検・交通安全運動期間中のほか、社長以下経営幹部を含めた本社管理職の社員が各職場を巡視し、全社員に安全に対する取組みや安全意識の向上、情報共有を図っています。



安全統括管理者現場巡視(車両整備視察)



経営トップ乗車巡視(運転室添乗)

5 事故の発生状況

2025 年度の輸送障害、事故等の実績は以下のとおりでした。

- (1) 鉄道運転事故(列車の衝突、脱線、火災など、または死傷者の発生に至る事故)
発生はありませんでした。
- (2) 輸送障害(列車の運休、または 30 分以上の遅延が発生した事象)
輸送障害が 3 件(自然災害 0 件、施設不具合 1 件、車両不具合 2 件)発生しました。
- (3) インシデント(鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事象)
発生はありませんでした。

過去 3 年間の鉄道事故等の発生状況は以下のとおりです。

事故種別 年度	鉄道運転事故	輸送障害	インシデント
2025年度	0 件	3 件	0 件
2024年度	0 件	8 件	0 件
2023年度	0 件	5 件	0 件

6 安全確保のための取り組み

(1) 職場ごとに実施している訓練

① 運転士の教育訓練

車両故障時の応急処置や異常時での運転取扱いを中心に、現車を使用した訓練を実施しています。(年 6 回)

② 指令員の教育訓練

列車遅延時における運転整理や異常時の取扱いに関する訓練のほか、電力知識に関する教育も実施しています。(年 8 回)

③ 駅係員の教育訓練

非常停止ボタンの取扱いや走行路内落とし物回収時の取扱いなどの訓練を実施しています。

④ 施設・電気保守係員の教育訓練

設備故障時の早期復旧・異常時対応能力の向上を目的とし、作業に関する安全教育、電車線事故復旧訓練、転てつ機取扱訓練、遮断器取扱訓練、入換合図訓練、案内軌条解体復旧訓練、分岐器解体復旧訓練を実施しています。

また、作業着手前の打合せでは、PKY (Planning Kiken Yochi) 等により工事請負会社と相互にリスクを共有しながら施工方法と安全対策の確認を行っています。



入換合図訓練



転てつ機取扱訓練

⑤ 車両関係(整備委託会社)の教育訓練

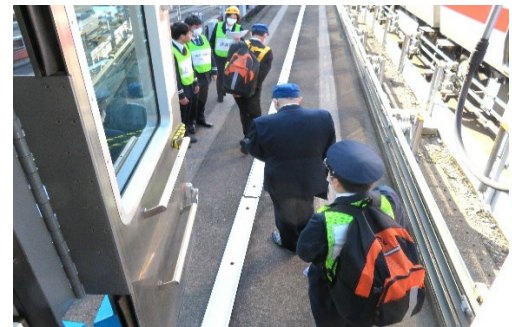
保守作業を行っている係員の技量(スキル)に応じた教育訓練を行っております。

(2) 防災訓練

2025年11月7日(金)、大規模震災発生時の初動対応を中心とした実践的な訓練を実施し、災害発生時における各自役割行動の確認、緊急連絡体制、消防対応力の強化を図るとともに、訓練終了後には振り返りを行い、防災体制の向上を図りました。



列車内受傷者救出訓練(救助隊との連携)



駅間停止した列車からの避難誘導訓練

(3) CS(チャレンジ・セーフティ)活動

職場ごとに各社員から安全に関する意見をもとにした議論を、管理職社員がフォローする形で実施しています。現場社員からの「ヒヤリハット」および「事故の芽情報」は、ポータルサイトを活用して情報を共有するとともに、褒める文化の構築により、安全意識の高揚を図っています。

① 運転管理所におけるCS活動

年間3回全体会議を実施、社員一人ひとりが自ら考え更なる安全を目指しています。

② 総合指令所におけるCS活動

定例勉強会にて、CSに関する実施しています。

③ 大宮駅におけるCS活動

年間3回全体会議を実施、駅務室内に活動報告を掲出し、更なる安全を目指しています。

④ 設備管理所におけるCS活動

毎月の連絡会議内にて、CS(ヒヤリハット)に関する報告を輪番にて実施しています。

⑤ 車両課におけるCS活動

車両整備委託会社からのCS情報を社内展開しています。

⑥ 各現業機関からの CS 情報共有

各現業機関からの CS 情報を社内ポータルサイトに掲載し、全社員に共有を図っています。

⑦ CS 活動報告会

事故防止委員会にて、各現業機関より CS 活動報告を行っています。

(4) 安全研修

過去に起きた事故の悲惨さや社会的責任の重大さなどを学び、安全意識の向上を図りました。
また、安全探求研修(年 2 回)を実施し、経営トップによる安全講話および JR 東日本総合研修センターでの社外研修(事故の歴史展示館見学)を通じて、安全の重要性および安全意識の向上を図っています。



安全探求研修(経営トップによる安全講話)

(5) 事故の風化防止活動

自社および他社で発生した後世に伝承すべき事故に関するパネルを展示しています。訓練等に活用して教育することにより、過去に発生した事故の再発防止対策や教訓の風化防止に取り組んでいます。



事故事例パネル一覧(風化防止)

(6) 社員の健康管理

① 列車乗務及び業務用自動車運転開始前における健康状態確認、アルコール検査の実施
管理者と対面による心身の健康状態の確認を行っています。このうち、酒気帯び等の有無の確認については、目視等によるほか、アルコール検知器を用いて実施しています。

② 睡眠時無呼吸症候群(SAS)検査

スクリーニング検査を定期的の実施し、SASに起因する事故防止に努めています。スクリーニング検査で精密検査が必要と判断された場合は、指定の病院で精密検査を実施しています。

③ 熱中症対策

熱中症に関するマニュアルの周知及び作業に従事する際の熱中症指数計携帯、空調服着用、制帽の省略を実施するとともに、こまめな水分・塩分補給及び休養を促しています。

(7) こども110番の駅

沿線の子供たちを、事件・事故等のトラブルから守るため、全駅を「こども110番の駅」とし、安全かつ安心してご利用いただける駅づくりに取り組んでいます。

(8) 事業所自衛消防組織

火災発生時の緊迫した状況においても、迅速かつ適切な行動が行えるよう自衛消防訓練を実施しています。

7 安全を支える設備および取り組み

安全を支える主要な設備として、列車保安方式はATC(自動列車制御)装置を、進路制御にはARC(自動進路制御)装置を採用しています。

ホーム上の安全設備について、列車非常停止ボタンを各駅ホームに1ヶ所ずつ増設(2018年)し、緊急時における一層の安全確保に努めております。

また、ホーム転落防止柵、内方線付き点字ブロック、CPライン、指令員と直接通話ができるインターホン等は定期的にメンテナンスを行っており、お客さまが安全にご利用いただけますよう図っています。

車両については、タイヤの内圧の異常を検知するタイヤ内圧監視装置、ホーム反対側のドアが開かないようにする誤開扉防止装置を導入しています。また、車内の安全確保及び犯罪防止のため防犯カメラを全車両に設置しています。

AEDを全ての駅の改札口付近に設置しており、防災訓練時に取扱訓練を実施しています。また、駅構内の安全確保及び犯罪防止のため防犯カメラを全ての駅に設置し、改札口周辺及びホーム上の映像を総合指令所で集中管理している他、大宮駅等でも確認できるようにしています。



各駅ホームの非常停止ボタンとインターホン



ホーム乗降口の安全設備(丸山駅上り)

・老朽設備のメンテナンス

安全・安定輸送の確保のため、老朽化した設備・車両を計画的に更新、修繕を行っています。

2025 年度における老朽設備の更新および修繕・設備故障の防止対策実施一覧

運転保安装置(設備)の更新

- ・ARC/DTU 装置の更新
- ・列車無線装置の更新

車両関係設備の故障防止対策

- ・2000 系(02 編成)機器更新
- ・車両前面表示(制御器)の更新

設備関係の老朽故障防止対策

- ・JR 線上空の橋りょう修繕(塗装)
- ・加茂宮駅外壁およびホーム上家改修
- ・内宿駅階段外壁改修
- ・き電ケーブル更新
- ・総合指令所(丸山機器室)外壁修繕
- ・駅通路の点状ブロック取替(一部駅)

8 お客さまからのご意見

ニューシャトルでは、お客さまからお寄せいただいたご意見・ご要望をもとに、サービスの改善に取り組んでいます。2025年度は、585件の貴重なご意見・ご要望を頂戴しました。

安全に関わる情報を頂戴した際は、速やかに点検を実施するなど安全の確保に取り組んでいます。

◆お客さまの声に基づく対応事例

お客さまの声：JR線が遅延や運休すると振替輸送をしていると思いますが、その影響でニューシャトルを普段から利用している人たちが乗車できなかったり、遅延が発生していることが増えている気がします。もっと対策を考えていただきたいです。

改善策：振替輸送が発生したときは、状況に応じて社員を駅へ派遣し、お客さま乗降のお手伝いおよび各ご案内や臨時列車の運転手配等をおこなっております。

※振替輸送につきまして、関係路線で輸送障害が発生した場合にお客さまが他路線を使用して目的地までご利用できるサービスとなっており、当社においても他の鉄道事業者と協力し実施しております。振替輸送の際は日頃より当社線をご利用いただいておりますお客さまにはご不便、ご迷惑おかけいたしますことを大変心苦しく感じておりますが何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。

9 自然災害における対応力の強化

台風接近や大雨、降雪予報等の自然災害が想定される場合、各現場との情報共有を速やかに行い当社への影響など状況を鑑みて対策本部を設置し、災害対応にあたっています。

対策本部解散後は対応に関する振返りを行い、今後の課題について議論やマニュアルの再整備、各現場で実際に即した訓練を計画的に実施することで、災害対応力の強化を図っています。

10 鉄道テロ対策

テロや犯罪行為等の未然防止等のため「見せる警備」を軸とした以下の対策を実施しています。

(1) 巡回・警備

警備員による駅構内、終着駅での折返し列車内の警戒および車両基地内の巡回を強化し、未然防止に努めています。また、警戒強化期間を設け、「特別警戒腕章」を着用するなど「見せる警備」を実施しています。

(2) 警察・消防との連携

テロや犯罪対策に万全を期すため、警察、消防機関と緊密な連携に努めています。

(3) 防犯カメラによる列車内および駅構内の警戒

列車内および駅構内において、防犯カメラ設置を示す表示を見えやすい箇所に掲出し、テロ行為や犯罪(迷惑)行為等への警戒と発生の未然防止を図っています。

(4) 不審者や不審物を発見された場合は、身の安全を確保したのち運転士または駅係員、各駅に設置しておりますインターホンにてお知らせください。



列車内インターホン(各車両に設置)



各駅インターホン(自動券売機横)

11 お客さまへのお願い

- (1) 他の鉄道事業者等と連携し「声かけ・サポート」運動強化キャンペーンを実施しています。
お身体の不自由な方や、駅構内でお困りのお客さまを見かけましたら、積極的なお声かけをいただきますとともに駅係員、運転士にお知らせください。
- (2) エスカレーターは、立ち止まらずに利用すると、転倒や転落など思わぬ事故やおケガの原因につながります。ご利用の際にはベルトにつかまり、立ち止まった状態でご利用ください。
- (3) スマートフォン等を使用しながらの歩行は、他のお客さまと接触するなど大変危険です。
転倒など予期せぬ事故につながる恐れもありますので、お止めください。
- (4) 走行路に落とし物をされた際は、駅係員またはインターホンにてお知らせください。なお、回収にお時間をいただく場合や、列車の運行を停止して回収を行う可能性もあります。荷物をお出しになる際などは、十分お気をつけください。

12 お問い合わせ

今後の安全対策やより安全で信頼される鉄道をつくるために、みなさまからのご意見・ご感想をお寄せください。

埼玉新都市交通株式会社

ホームページ <http://www.new-shuttle.jp/>